

◆ 2023 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：あかねこくらぶ

26A-31

代表者：代表 峯崎 なお子

URL : <https://butter-thon.com>

1. 活動が必要とされた状況

平林寺西側に添って流れる野火止用水に平行した遊歩道は「野火止緑道」と呼ばれ、平林寺境内林の延長として、また用水の水辺として豊かな生物多様性を観察できる。しかし、環境保全の計画的取り組みはなく、希少な生物が減少しつつあるのが現状である。そこで、現在の「野火止緑道」の実態を調査し記録する必要性が出てきた。同時に、この環境の価値を市民で共有するためにも、調査は市民参加型とすべきと考えた。



チョウの調査はその最初の試みで、比較的観察しやすく、子供から大人まで親しみやすい対象であること、食草や吸蜜植物など、植物の多様性が生息する蝶の種類之多さと密接に関係していることなどから選んだ。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）



発生時期のまちまちなチョウの種類を調べるためには、1年間を通しての観察が有効である。幸い「野火止緑道」はウォーキングや通学などで利用する人たちが多く、協力してもらうことで有効なデータが得られると考え、バタフライソ



ン（バタフライウォッチングマラソン）を企画した。実施は2024年4月から1年間で、2023年はその準備期間となった。市民参加型調査では非専門家である市民に向けた調査の決まりや観察の手引きなど、ハンドブックの充実が重要となる。それを基にホームページも用意。紙ベース、データどちらにも対応できる環境を整えた。2/17には第1回事前講習会を行った（第2回目は3/16予定）。

3. 活動の成果

ハンドブックとホームページといったツールが整い、現在チラシを配布し、参加者を募集している。

その過程で、市の後援の他、十文字学園女子大学生生活環境研究所、ふるさとの緑と野火止用水を育む会（HUG ネット）の協力も得ることができ、4月からの始動に向けて成果が得られたと考える。



4. 今後に残された課題

当初、小中学校の積極的な参加を期待していたが、初めての試みで実績もなく、エリアも限定されており、学校関係への働きかけは十分とはいえなかった。しかし、まずはハンドブックやホームページを通じて、多くの方に関心を持ってもらえたと思う。調査は継続が重要である。今回の経験をふまえ、実績を作り、次回につながるよう、市民のイベントとして定着する仕組みづくりが必要であると考え。